柏崎体育

發行所 柏崎体育団事務局
（柏崎市役所内）
發行編集人 今井哲夫
印刷人 小田信夫
定價一部 10円
（毎月1回10日発行）

論説　体育團と保健課

柏崎体育団は單にスポーツ團体の集合体にとどまらず、地域團体、學校体連をも包含し、一部趣味人のためにのみ奉仕することに留らず、廣く市民全般の―幼児から老人に至るまでの―保健、活力向上にその終局の目標を置き、この目標のために時には加盟團体の不羈奔放に規正を與え、强力な誘導を行つて一意前進の態勢を保持して懸命の努力をして來たことに世の信頼と支持を得て來た。舊臘横濱市に於ける全國都市体育研究協議会で柏崎体育團が受けた賞讃は又この故であつたものと思う。

柏崎市に於いては昨年、保健衛生、体育を纒め保健課を新設し、保健衛生、体育の一貫性と、教育としての体育の既設概念と概設機関より拔け出して福祉としての体育、労働補償としての体育―基本的人権確保のための体育を明確にし、次元を一にして機動性を向上することとなつたのは極めて適切であつた。

ここに於いて体育団と保健課とは相共に同一方向に向つて、緊密な提携の下に前進することの態勢を得たものと言える。

翻つて顧みるに柏崎の体育は、体育団を中心とする民間運動として押し進められて來た。体育行政の貧弱にもかかわらず、体育団の活躍により体育柏崎の名声を保持して來たと言えよう。然し乍ら体育柏崎の名聲は、民間運動としての体育であり乍ら、正しい理念を堅持し、幾多困難に堂々と対決してきた姿に注がれたものであつて、理想の体育が全市民に亘つて遺憾なく実施されていると言うことではない。

事實柏崎は先覺の明により大競技場、プール等施設を整え、スポーツに於いては一応一方の雄となつた。然しながら其の後他地の自覚と擡頭により追いつかれて居る。より一層重要なことは一体市民全体の体育はどれだけ前進しているかと言うことである。遺憾ながら全市民体育に就いては未だ道遠しと言わざるを得ない。さればこそ柏崎体育の進路はこの密林に入ることにある。

柏崎体育團は愈々眞の体育中味の体育に突入するこの構想を実現するために体育團では二十七年度豫算七〇万四千円を組み、中五〇万円を市の援助に期待しているのである。

市保健課編成の体育豫算は二〇〇万円の要求と聞く二〇〇万では豫てよりの念願である市民体育館建設、公認競技場の一種昇格など思いもよらないことであり極めて不充分のものではあるが市全般の財源を思えば最少限のものとして一応我慢もせざるを得ない。二〇〇万円の中一五〇万円を施設、研究調査、組織の育成及び対外的行事、市民全般を動員する市内行事に當て民間運動の展開、細部に亘る活動、行事を有効能率的に振作せしめんと企画していることは適切である。

思えば過去に於いて一五万円の補助金を体育団に當てて、市の面目を賭けての殆んどの対外行事、市内行事、民間体育振興を委託運営せしめて來た。之に対し体育團は少い資金に苦労しながら唯々一途に柏崎市のために犠牲的奉仕の誠を致して來たのである。市保健課の体育係員が唯の一人にすぎない事実を識る時に、これまでの活動と成果が体育團のカバーと協力が如何に大なるものであつたかが諒解されると思う。

体育活動は事務ではない。市民全部の生活と結びついた組織的な活動の中にこそ偉大な成果を期待し得るのである。その爲めには民間人と民間組織の活用が緊要事となる。

市當局がこの點に思いを至されて体育團に対する新年度豫算處置に善處されんことを望む。

加之、防犯野球が、高校商高校、工高校と比較的練習になんとかなる好位置に恵まれた本七、諏訪町、學校町、及び鯨波が强剛振りをうたわれ、追羽根も夜なな夜な鮮魚組合の廣間で猛練習を續けたと言われる本三と鯨波小學校で旬日餘の猛稽古を積んだと言う鯨波チームによつて競われている事實を看過してはならない。この現實を卒直に確認するならば、主催者たるもすべからく大會以前のもの、より基盤的なものに思を至すべきであろう殊にそれが防犯の名に下に行われるに於て更である。

私は言う、中學生に遊び場を與えよ、と一日一刻も早く、一寸の土地でもより廣く、爲念、具体的に私案を末尾に付す。

観光柏崎の誇る、延々たる海岸道路の南側を全部地均しすべし、しかる後植樹帶と廣場を交互に造るべし。されば柏崎発展の基として道路も生き、眞に名実兼備の柏崎の名物となるであろう。忘言多謝（一九五二、一、三〇）

「遊び場」について

今朝雄

「子供に遊び場を与えよ」と言う主張は、こゝ一、二年、四萬市民の直接的な関心事として極めて廣い層の共鳴を呼んだ。この根强い与論を背景に社會福祉事務所を中核に着々その實現を見て來た事は大變喜ばしい更に本年は保健課も新施策として大きく取り上げている由、その成功を祈るや切なるものがある。

この機に際し、愚見を開陳して敢て大方の参考に資し度いと考える。

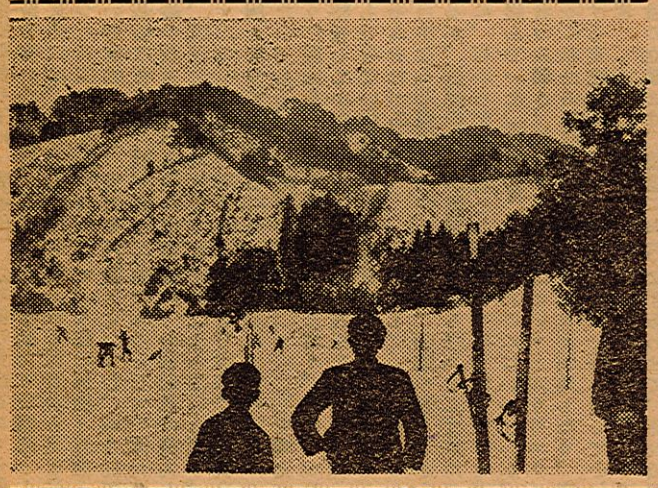
町内で「遊び場建設」の話が出る時、最初に歡聲を擧げる者は、十二三から十四五才の男の子供達である。そして草を刈り、土を盛り砂を運び、嬉々として作業にいそしむ、やがて地均しが出來そこにブランコが、シーソーが、そしてベンチが設置され、完成祝のあつた翌日から彼等は敵視されるのである。「男の子が獨占していて女の子はブランコに乗れない」「大きな男の子が馬鹿力を出すからもうシーソーがこわれた」「中學生は立入禁止してもらい度い」「いや五年生以上の男子は禁ずべきだ」かくて最初の喜びが大きかつただけに彼等の失望は絶望的だ。だから最近の中學生は「遊び場の建設」には極めて冷淡になつている。勿論教師からそんな話を持ちかけられゝば多年の習慣と一應のエチケットから満更でもない様な顔はするようだが――。

この事は今迄に作られつゝある所謂「遊び場」は、最も遊びたい者　そして最ものび〳〵と手足を伸ばさせてやりたい者達にとつては何等の価値をも有さないものである事を意味する。而して、それはそれなりに意味がある。そこは社会福祉事務所の手でお婆さんが孫の手を引いて、いや孫に手を引かれて、午前中からの散策保養の場所として、緑の木を植え、紅の花を咲かせ、クローバーのしとねを作り、清い水の噴水のある、ルリ色の鳥の巣箱のある、小公園と化すべきである。そうして腕白小僧達をしめ出せばよい、その代り彼等が手足を伸ばし力一杯根限り遊び呆ける眞の意味の遊び場を保健課の胆入りで造らなければならない。

私は一八一一年、ベルリン郊外ハイゼンハイデの森の一隅にひらかれたヤーンの偉大なる業績を思い出す。それは僅か数年に充たない活舞台ではあつたが、そこからの偉大なる大ドイツ統一の大業が芽ばえたのではないか「ツルネン」とは「勇敢なるドイツ男子をつくる」爲のものであると喝破し「活用せざる剣は鎖鐵と化す」と稱し、粗衣と、粗食と、勇敢なる精神と、撓ゆまざる功名心に燃える青少年の育成に祖國の運命を賭したヤーンはその方途を唯一体操場の中に求めたのではないか。翻つて市内を見るに、第一中學校一千の生徒に与えられた遊び場は、何處にどれだけの面積があるだろうか、第二中學校には体育館こそ、やゝ満足すべきものが今建築されつゝあるも、その完成の曉に於ける屋外運動場の狹隘は如何にして救うべきか、第三中學校の現況については亦何をか言わんやである。防犯の名の下に行われる、少年野球、少女追羽根が、その大會が盛大に行われるは大いに敬意を表するとしてその練習の場に對する考慮皆無の爲に生ずる幾多の混乱――やつてはならない路上のキャッチボール、追羽根、果ては早朝四時起きの野球となり、寒夜の涙ぐま

新雪は呼ぶ

待望の安田スキー場再開さる
―二月十二日開場式―



終戦前まで地元田尻村の熱意と、米峰スキー団の協力で、柏崎刈羽地方でジャム會もやれるスキー場として、ブ台を持ち、縣下スキー大地方民に親しまれていた安田スキー場も、戦後のインフレと資材難の爲すつかり施設は荒廢し、「六本松」ゲレンデも松林になつてしまつた。

一昨冬から当時の関係者、上野田尻体育團長（醫師）川合米峰スキー會長（大洲小學校長）阿部安田館主人、井貝新聞店、寺瀬新三郎氏學校関係者がスキー場の再開について準備を進めていたが今冬遂に実を結び、各種團体の協力で再開に漕ぎつけた。

元の六本松ゲレンデから、少し奥に入つた所、八石、黒姫に向合つて、初心者向の第一ゲレンデ、峯を越えて、米山、佐渡、弥彦を一望に專門家向第二ゲレンデが地元青年團の奉仕で整備

寫眞は第一ゲレンデ

安田スキー場開場式行わる

期日　二月十二日
前九時より后三時まで
場所　安田スキー場
安田駅西南二粁
徒歩三十分

尚　開場式終了後直ちにスキー講習會を開催
講師は　島掛藤次郎氏
新保　昂　氏

最近の新雪に勇躍するスキーヤーの大擧參加が豫想され、当日の大賑いが期待されている。

社會福祉事業に於ける体育の問題（一）

柏崎市社會福祉事務所長　月橋会

社會福祉事業は、一言にしていうならば、この世の中から、不幸の人をなくしようとする事業である。果して無くする事が出來るかどうか、甚だ疑問のある所であり、イデオロギーの差によつて、容易に結論の出ない所でもある。しかしこの小論では、イデオロギーの問題には觸れず、現在に於ける社會福祉事業を前提として意見を述べて見たいと思う。

社會福祉事業を、社会事業、又は慈善事業といつた昔から、所謂氣の毒の人を救護するということは、その人に最も適合する対策を立てる事が其の中心であつた。この樣に、其の人個人を對象として方策を講ずる事を、この方面では、ケース・ワークという。ケース・ワークのみで果して救護の実があげられるかというと決してそうではなく、この樣な人を數多く出して來るグループ、又はその樣の人を能率的に又は効果的にするため、同じ考を持つ人々のまとまつた力を利用するとか、同じ樣な条件にあるその樣な人々をまとめて対策を講ずるとかする事が考えられて來た。これをグループ・ワークとして社會事業の実績を向上させる一つの方法として認めるに至つたのである。こゝで考えねばならぬ事は、ケース・ワークもグループワークも、其の対象は所謂救護を要する氣の毒の人である事である。グループ・ワークは、青年團、婦人會の樣な、グループそのものが救護を要

（続）

する救護を要するものでないものでも、そこに於て社會福祉事業がグループ・ワークとして行われる時は、やはり氣の毒の人を、目あてとして行われるのである。この樣にして、直接氣の毒の人をのみ對象として事業が行われる事によつて、果して對象となり得る人はなくなつて來たであろうか。文化が進み社會構造は益々複雜となつて來ると、到底この樣な、ビストン的な單純な考方で所期の目的を達する事は出來なくなつて來た。例えば自分の子供を幸福にしたいと考えても、附近に不良が釋されて居り、その社會的連關、構造、機能には、今尚未知の部面が多く、社會學的には甚だ興味がある所のものである。休育の社會學的実体が明瞭になつて來ると、この問題は自ら解決するものであるが、今は未知、又は私の不勉强のための未知なるものとして、こゝにいささか小見を推し進めて見たいと思う。

先ず最初にはつきりしておかねばならぬ事は、体育は如何なる點に於て、社会福祉事業を交錯し、其の連關性を生ずるかという事である、疑もなく、社会福祉事業は、社會を幸福にしようとするものであるから、体育も亦社會を幸福にするものでなくては、その方向を共にしないわけである。体育が健康を増進するだけだとしても、それは福祉であり、社会を幸福にするものであると素朴に言い得られる。名は体育であつても、健康にすること〻反對の方向に進むものがあるならば、個人をして不健康とし、社會福祉と背反するものと斷ぜねばならない。かくの如く考えて、社会福祉事業と体育とが連關を持つとするならば、体育による社會福祉事業の進展と、社會福祉事業による体育の强化とがあり得るわけとなる大發姿にいうと、体育と社會福祉事業とは、其の目的を共にするものであるが故に、各々其の独自性を發揮しつつ、其の方法、技術に於て相互に影響し合い、共通するものがあると言い得る。

さて問題は、この樣な社會福祉事業と体育とがどんな連關を持つているかということである。体育は常識的には、極めて個人的に、身体を丈夫にするものと解釋されて居り、その社會的連關、構造、機能には、今尚未知の部面が多く、社會學的には甚だ興味がある所のものである。体育の社會學的実体が明瞭になつて來ると、この問題は自ら解決するものであるが、今は未知、又は私の不勉强のための未知なるものとして、こゝにいささか小見を推し進めて見たいと思う。

（続）

日本体育の現象整理と革新の論理

日本体育大學教授　石津誠

新に柏崎市の保健課長となられた今井哲夫氏から、体育につい何か書けと言われた。

誠實の人今井氏、情熱の人今井氏、友情と人格を以て人に接して變らざる今井氏は、私の尊敬する一人である。この今井氏が柏崎市の保健課長に就かれ、愈々柏崎市の偉大な發展を期待し、そのお祝の意義をこめて、この稿を送ることとした。

遙かに新課長の人格と手腕に期待し柏崎市の隆昌を祈りつゝ。

(一)學校教育の沒落と体育への期待

近代における貧困教育の歴史は、指導的權威の喪失からはじまる。

現代の學校における學生生徒達の生活は、もはや昔の學校教育概念の中における、教育者被教育者のような位置を占めることはできなくなつている。

教育者は内的にも、外的にも、その指導的權威を頽廢せしめ、学校は既に教育的權威沒落への歩みをつゞけている。

われわれの間にあつて、この様な學校は、もはや、教育の夢を画く過去の遺物以上の何ものでもない。このような意識は、既に一種の社会的通念として一般化されている、といつてもそれは、私のろう斷ではないであろう。

しかし私は、だからといつて學校における學校を構成する成員の教育的意慾や教育的要求というものが、すつかり消滅しているなどとは簡單に結論づけようとしてはいない。

さればこそこゝに掲げる主題も生れるのである。むしろ逆にわたしくは考えとつている。自己の生活をより永遠的な根底に結びつけようとする切實な要求は、被教育者たる彼らの間に起りつゝあることは、見逃すことができない。教育者指導者の頽廢や、學校の沒落は必らずしも教育的要求そのものの減退や、沒落を意味するものではない。ただ私は、現代の學校や教育者が、昔の封建社會においてなされた教育的要求とは、全くかけ離れた遙かに高い次元においてなされつゝある彼らの、この切實な要求に對して、應え得るものを有つことができなくなつてしまつているのではあるまいかと思う。

教育的自体が、彼らの心からなる叫びに對し、求めるものを與え得ないが故に沒落しつゝあるのであつて決して教育的要素や、その慾求そのものが、彼らの社会から消失したわけではないと思う。

民主教育といつて第一にとり上げたのは、討議法であつた、これはよい方法に相違ない然しそれも、興味がある間だけのことで決して重大な事柄を徹底した話し合いで、決定すると言う発展は示していない。

問題は教師にある。

最近の生徒はダラシがないと言う教師が、よれよれの洋服を着て、ボタンもかけず、兩手をポッケットに入れて生徒に注意していたり、掃除が悪いと言いながら、自分は土足のまゝ平気で歩く教師がいたり、集合がだらしないという教師が出席時間に遅れがちであつたり、しかもそのような教師が特に行き過ぎる勞働運動に熱心であつたり、全く身動きのとれない職人化した教師に對して、彼ら生徒たちが冷淡になつたり、そのような學校に對して、輕蔑したりする彼らであつたからとて、彼らだけを責めてはなるまい。

ペンを求めているものに石を与えれば、彼らが背を向けてゆくのは当然であろう。

現實社會が矛盾と斗爭と人間の罪と悪があまりにもわれわれの生活を、根底かは不安ならしめているからこそ、彼らは眞から頼るべき指導者を求めてやまないのであつて、恰も信者が、自己が聖者であり、賢者であるが故に、神を求めるのではなく、むしろ自から救わんとするも、救いえざる濁悪の凡夫なるが故に、聖取不捨の光を求めるが如く今日の罪と矛盾との巷にあふれる乱世の故にこそ、彼らは、切實な氣持ちで、これを救濟して呉れる超越者を、心の中でもとめているのである。前述した様に、次元の異なる追求理念を理解することなしに、形骸だけを後生大事にしていても、そうすればするほど、その様な教師はいよいよ窮地に追い込まれることとなるのほかはないであろう。

この様なときに教師達の多くは、体育の教師に生徒のしつけや訓練を期待して來る傾向がある。それは次に述べるような基礎においてではなかろうか。そこからほんとうの意味の体育が失われて行くのである。

(二)体育沈潜への基本的契機

日本の体育をつらぬく基本的な特色として、訓練的性格に、その集中的表現をみいだすことができる。それは、いわゆる「封建的」体育制度と、國力を以て國策として實施しなければならなかつた「統制体育」とをあげることが出來る。

しかも問題は、この二つの要件がどの様に相互の関連があるかという點である。この二つの要件が、おのおのインディペンデントなものでなく、相互にからみあい相互規定的な關係にあることは、一見して明瞭であるが、私としては更に、この何れの要件がより基本的なものかを問わなければならない。

十九世紀の半において東洋は、西欧における資本主義國家の市場化された。言わば一面植民地化されようとしたのである。しかもその間において日本の、近代國家形式への營みは多忙を極め、一切は擧げて國家權力の確立と膨脹に向けられ教育は、西歐文化の吸収に集中され、文化は國家のために手段視されたのである目ざましい發展を遂げている西歐文化を吸収するためには、海外貿易を興さなければならない、貿易の振興には生産を高めなければならない、処が日本の工業は未發達である。生産品は決して優れていない。これを海外に輸出する爲に、己むなく武力に依存しなければならない矛盾が醸成されたのであつた。

そこから兵力増強と国家至上主義の教育は展開されるに至つたのである。

かくして教育理念は封建的国家權力によつて完全に支配され、封建的專政國家態勢下における体育は強行されるに至つたのである。

日本の体育が眞実の体育探究への念願は、封建的專政國家態勢の下に、普遍的視野を奪われ、進展する体育文化には、目を覆われて育つた自由なる基盤を有たない封建的体育と、自由なる基盤は有つが、國家至上主義の教育理念から生れ出る、眞理を見失つた体育という二つの立場が、基本的契機となつて發達するに至つたのである。この表裏のように関連ある立場を明確に整理してかからないと、とんでもない体育が生れて來るおそれがある。

自由なる基礎には立つているが、選擇の主体が理念的に、自からを規定者として臨んでいた「統制体育」の後者の立場と、選擇の基盤が既に非自由な階級社會における支配をめぐつての規定者としての「封建体育」の前者の立場とは、根柢において相對した方向と言える。

その何れの立場かを目ざしているのか、前節で述べた學校教育における体育に期待する課題の一つであると私は思う。

(三)現象整理と体育革命

自由基盤にありながら選擇者自身が統制の規定者となつた「統制体育」も、非自由基盤において、支配の絆を背後にして、規定者となつた「封建体育」も共に、日本体育の進展に偏移的な性格の附与と萎縮を与えたことにおいての責は共に平等である。

從つて私は、この兩者何れをも肯定することは到底出來ないのである。

この様な支配をめぐる制度なり行動なりを據點として築かれる体育から足を洗つて、人間の認識と思惟と行動とをつつむ、綜合的統一的なものとしての体育の再建に、われわれは努力しなければならないと思う。

ここまで述べて來て私は今の日本の体育の現実について、二つのことを考えて見たいと思う。その一つは主体的性格を失つた体育も今日の新しい日本体育として存在していると言うことである。前述の通り昔から何もかも輸入をして來た日本としては、体育だけを責めるわけにはいかないが、何かというと向うのエライ人のことを引用したり、向うのものを持ち出してそれを自分の好みにあうようにつなぎあわせて、それで何かいつたつもりでいる。偉大な体育指導者や、新しい体育人がいるということである。

日本の教育革命はアメリカ教育使節團報告書によつて、點火され燃え出したのである。

しかもその報告書は、すこし大げさな表現をすれば廿世紀迄の人類社会における最高位の段階に序列される教育書である。

廿世紀の前半迄に發達した民主々義教育思想の燦然たる結実であると絶賛を与えている日本の教育者のあることも、もつともであると私は思う、私は何度かこれを讀み返しているが、読めば讀む程、よくもこれ程あの當時の封建的軍國主義的日本の事情を、するどい觀察を以て把握したものだと感心する。

アメリカ民主々義の正統な傳統が脈々として脈打つているこの報告書が、日本教育の根柢を揺り動かさずにはいなかつた。だからそれらを背景として開き直つた体育人が現われて來ても不思議はないし、充分首肯出來る。

然し報告書は明確に、一つの大事な釘を刺している。それは報告書のはじめに話されてある、つぎの一節である。これによつて私は一層報告書の眞價を認め、アメリカ民主々義の伝統が如何に偉大なものであり、尊いものであるかを認めざるを得ないのである。即ち「われわれは、あらゆる人種あらゆる国民が自己じしんの文化的資源にもとづいて自己および世界ぜんたいに寄与するなにものかをつくりだす力をもつていることも信じている。これこそ自由主義の信條である。われわれは劃一をもとめない。われわれは教育者として絶えず個別的な偏差、獨創性および自発性に注意をはたらかせている。これがすなわち民主々義の精神であるわれわれは、アメリカの制度を表面的にまねてもらつても、すこしもうれしいとは思わない。われわれは、進歩を信じているから、全世界のいたるところ多種多様の文化があることをよろこぶのである。かかる多様性こそ、希望と新しい進展の源泉となるものであるから」

このような報告書の要望に、果してこたえているであらうか、まさにこの觀點から、日本体育の現實を直視すべきである。

時流に棹さすことの得意な体育人や教師達が、中央の大家先生となつて音頭取りをして、これに拍子を合せて、人波をうつて駈けだしたのも無理はないが、余りにも情無い話である。然しその流行も下火となつた

燃えさかつた當時を思い合わして私は、感慨無量である。

もう一つは体育に訓練的成果を期待する軍事教育的な体育の復興を念願している封建遺制が、再ひ具体化されようとしているということである。

學校が教育の場としての生徒達の魅力を失つたからその沒落を一擧に取り戻すために、その一つの手段として体育を惡用しようとする思想がうごめき出しているということである。私はこれを敢て反動的体育という。

外国のものを崇拝する人が向うのエライ人の著書や言葉や、斷片的な施設をお手本としてなされる著書や行動を、勉強してわるいというのではない。それは大いにやらなければならないしかし、この様な學問的なものを據り所にして、再建する日本の体育を担つて行うとする人達が、現実からはなれた、したがつて現實の日本が求めているところの体育からはなれた、他の主觀的、容観的條件に制約された知識によつて、ひきづられてはならないと言う自覺を前提としてでなければ、わたくしは賛成が出來ないのである。

それはつまり次のような意味からである。

學問は行動の収約であり進歩して來た、或は建設されて來た体育への過去の要素の一切の経驗を内包するものでもあるのだから、右のような偉大な人々の言動か、又進んだ施設やその他が研究され、調査され、われ〳〵の血とされ肉とされなくてはならないことは当然である。だがそういうことは、それをする人の、そしてその時と場合のことを具体的に考察した上で、行われなくては意味をなさないということなのである。すこし乱暴な議論の進め方かも知れないが、右のようなとき多くの場合は、教師だけの一人ずもうになるか、さもなければ、猿の人眞似の様な現象がとび出して來る結果となり、折角の努力や仇きかけが阻止されると言うことになつて來るからである。

華やかなオーケストラのそれのように、教育界に打つて出たカリキュラム、体育カリキュラムは立派に仕組まれた。然しそれは用意されただけであつた。

主体性がなかつたとも言えるが、具体的なその時と場合が、ただ他動的にせき立てられ、そしてバスに乗り遅れまいとして乗り込んだだけで、行く先が的はずれであつたという、それだけのことである。

(四)虚脱となるな体育、白書を作れ

私は前項で、今日の体育について二つのことを考察した。そして、その前者について、より詳しくより深く筆を進めた。それは意識してのことである。

教育界を風靡した、流行の新教育ラプソディも、何時か忘れられようとして來た。よくいえば、眞面目な落ちついた自己反省期になつて來たともいえる。そこへ擡頭しようとしているのは、大巾の追放解除や、再軍備論的な社會事情に便乘しての、訓練主義的な体育思潮である。

しかも一方においては、解放された教師がその昔あたえられたコースに沿つて教授技術の技葉末節をいちくりまわしていた頃が、忘れ難く大綱だけ示されたのでは、手も足も出ないと、具体的な要目を心待ちしているという、過去の自主的活動の余地のなかつた教師に還らうとしている、實に情無いものさえ現れて來ているのが一般である。

このようなことが折り重なつて今、日本の体育は非常に重大な立場に立たされている。

封建遺制は日本の至る處に現存している。從つて反動的体育に沈潜することはいと易いことである。

前項で私は、反動的体育思想と呼んだが、反動とは何かと反問されれば、これを説明もしなければなるまいが、今更段階的な歴史観を假定して、反動的と言うことを説明するまでもあるまいし、その暇も実はないので、論述の前後から推理していただきたい。

ところで私に与えられた紙數も残りすくなくなつて來たので、この邊で一先づこの主題のまとめをつけなければならなくなつた。

「他の教師が幾ら注意したり、制しようとしても應じないが、体育の教師が壇上に立つと、生徒達は靜かになる。だから訓練は体育の教師に委せよ。」という言葉を聞く。若し平気でこのようなことが、他の教師の口から出るとしたら、その教師は既に、教師たる自身の自己否定に等しい暴言であろう。

このことを裏書きするように、今日の日本の高等学校で眞に生徒の訓育を担当出來る教師が幾人あるだろうか、恐らく体育の教師を除いては、曉の星に等しいだらう。と言うのが校長さんの聲である。

これはまだよい方であるかも知れない。甚だしいのは、生徒のしつけと訓練は体育科がやるべきものだと言う。「体育の教師」ならまだその教師の個人的人格への關連だから。

他の教科の教師の場合も同様に考えられるが、体育科が……となると問題である。

成る程体育科の各教材の中には、凡そ社會生活に必要な特性が、數多くしかも身体運動や行動的な場面で展開されるような仕組になつてはいるが、それはひとり体育だけでなく、教育全般でなければならないのである。何一つとして社會性の教養を含まない教科はないであろう。体育がしつけ訓練と結びつけられて考えられるのは、そのような外部的な外形的なものでなくて、内面的なしかも自然的な体育運動の構成そのものの中に、あるべき姿なのであつて、しつけや訓練の道具に使われたり、手段化されるべきものでは、絶對にない、目的そのものであり絶對的価値を有つものであり、もつともつと眞剣な人間の本性や本質に觸れて存在するものである。

それ故にわたくしは斷じて自由基盤を窒息せしむることなく、体育の教師自からが、自からの常識――この場合冷靜な判斷力と理解してもらいたい――と、實際的な思考とによつて、築き上げられる体育体系を、國民的基底の上に建設しなければならないと思う。

狂信的な、観念的な理念で、でつち上げられたものでなく、私達自からの叡智と自己の能力に基づく判断とを以て、堅実に築く、新たなる統制体育の建設を、心から念願してやまない。

体育人訪問記 ――13――

一人で十六種目の日石佐藤得二さん

―但し水泳は金槌組―

前號の本町七丁目七氣狂二寸そこ〳〵だが、皮膚は赤銅そのまゝで、見るからに頑健型の主、これでどうして粋なソーシャルダンスの名手、日石ダンス部のコーチヤでありスクエアダンス通とも來ている。

現在柏崎に庭球の硬球チームがーチームある。これが我が佐藤さんと同會社の三井田(榮)さんとである。

曾て南方で外人相手に打つた庭球の味が忘れられず昨年二人で始めたものだ。軟球も無論コーチヤ級でありサークルだ。おまけに寫眞最近バドミントンの研究に熱を上げ其の技術でも、ルールや理論に於ても上中越の最高權威である。

スケートは土地柄出來ないが、スキーは正に狂的で會社の休みを待つてはきつと赤倉か湯澤へ罷り越して柏崎になんかとんと姿は見えない。

球技は野球、排球、卓球何んでもこい、而して山岳部員で、白馬よし燒よし妙高よし上高地大いによしである。但し水嫌いで、釣は苦手であり水泳と來ては金槌組で御座る。

以上はスポーツ方面であるが、室へ入ればマーヂヤン倶樂部で將棋部員で音樂部員でも御出でだ。但し、圍碁だけは眞平だとある。

「どうもキチンと座つて、ウン〳〵考えているなんてとても堪らぬですよ」との仰せだ。

「歌ですか、やりますね會社の休みを待つてはきつと赤倉か湯澤へ罷り越して柏崎になんかとんと姿は見えない。

球技は野球、排球、卓球何んでもこい、而して山岳部員で、白馬よし燒よし妙高よし上高地大いによしである。但し水嫌いで、釣は苦手であり水泳と來ては金槌組で御座る。

以上はスポーツ方面であるが、室へ入ればマーヂヤン倶樂部で將棋部員で音樂部員でも御出でだ。但し、圍碁だけは眞平だとある。

「どうもキチンと座つて、ウン〳〵考えているなんてとても堪らぬですよ」との仰せだ。

「歌ですか、やりますね會社の俳句部であり、荒海の同人です、短歌も會社の部員で松田さんの朱同人ですよ」と

正に多藝多能、無論オートバイも自動車類も職業柄お手のもの「今度弓も始めますよ、左様々々、民踊民踊それも是非やろうと思いますがね」と來たものだ。

数え來れば実に二十種目に及ばんとする。流石の訪問子も、開いた口が塞がらなかつた次第だ。

その氣狂の主は誰あろう日石柏崎製油所の赤自動車のハンドル係佐藤得二さんである。年齢は三十八才という男盛り、肯丈は五尺一寸二寸そこ〳〵だが、皮膚は赤銅そのまゝで、見るからに頑健型の主、これでどうして粋なソーシャルダンスの名手、日石ダンス部のコーチヤでありスクエアダンス通とも來ている。

現在柏崎に庭球の硬球チームがーチームある。これが我が佐藤さんと同會社の三井田(榮)さんとである。

曾て南方で外人相手に打つた庭球の味が忘れられず昨年二人で始めたものだ。軟